

応援消費を通じて被災地の現状を世界へ発信

応援消費

普及・啓発

公立大学法人 国際教養大学(AIU震災復興サポーター)

所在地：秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱193-2
沿革：平成16年創設
(当該活動の開始時期平成23年度～)
学部：国際教養学部
学生数：1年3名/2年3名/4年2名/留学生5名
(AIU震災復興サポーター・平成30年11月1日現在)

○事業・活動の概要

国際教養大学は、「国際教養教育」を教学理念に掲げ、グローバル社会におけるリーダーの育成に努めており、毎年、29か国、190もの提携大学から約200名の留学生を受け入れるなど、国際色豊かな大学である。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災後に発足したサークル「AIU震災復興サポーター」は、被災地の復興支援と風化防止を目的として、被災地で作られた雑貨やお菓子の販売会、被災地へのスタディトリップといった活動を行っている。

○被災地の商品を校内で販売

同サークルは、もともとボランティア活動に関心のある学生たちによって立ち上げられ、震災直後はがれきの撤去など「人手を要する支援」に学生を送り込むことを主な活動としていた。しかし、時間の経過とともに「人手を要する支援」よりも「心の支援」が求められるようになり、同サークルの活動も仮設住宅への訪問など、被災者との交流へとシフトしていった。

被災者との交流の中で特にメンバーの印象に残ったのは、「震災があったことを忘れないでほしい」という声であった。販売会は、こうした声を聞いたメンバーたちが震災の記憶を風化させないよう、毎月11日の販売会で被災地の食べ物を味わい、3.11を思い出してほしい、そして今の被災地の人々や復興が進む姿を思い浮かべてほしいという願いから始まった。

現在は、毎月1回程度、被災地で作られた雑貨やお菓子などを仕入れ、校内において販売会を開催している。

購入者の多くが様々な国からの留学生であることから、国を問わず関心を抱いてもらえるような商品を選ぶとともに、英語と日本語の両方で記載したフライヤーを作成し、商品に込められた想いや作られた背景が正確に伝わるよう努力している。

最近の販売会では、がれきで作られたキーホルダーや、宮城県の仮設住宅で避難生活を送っている方々によって作られた色彩や形状に特徴のあるアクリルタワシなどが人気であった。販売後は、仕入先の業者に対し、御礼の言葉をしたためた色紙を送っている。



○被災地に出向いて応援消費

同サークルではスタディトリップを企画し、毎年、被災地を訪ねている。

平成29年は学内公募により、留学生を含む43名が宮城県牡鹿郡女川町を訪れた。現地では、女川町でまちづくり支援を行っているNPO法人アスヘノキボウの協力により、復興の過程について説明を受けながら見学することができ、被災地への理解が深まった。また、商業施設シーパルピア女川では、日本人学生が留学生の通訳となり、様々な店舗を案内しながら応援消費を呼び掛けた。震災後に移住してファッションショップを出店したアメリカ人の方の話に対し、留学生たちが熱心に耳を傾ける様子も伺え、終了後に行ったアンケートでも「とても良い経験になった」と好評であった。

平成30年は同サークルのメンバーのみで宮城県気仙沼市を訪れた。市内をツアーガイドと共に巡り、歴史や震災の変遷を学びながら、現地の特産品を購入するなど、積極的に応援消費や被災地の現状把握に努めた。

○今後の目標

同サークルは、留学生も含めた学生と被災地をつなげることを理念に活動しているが、将来的には、「支援」や「ボランティア」といった概念を取り払い、地域の本来の魅力にも注目して、その価値を発信することも目指している。

現在は校内での活動が中心だが、より多くの人々に自分たちの活動を知ってもらうため、秋田県内の他大学の被災地支援団体やNPO法人ともつながりを持ち、活動の場を広げていきたいと考えている。

公表日：平成31年2月4日

取材：平成30年9月「エンカル・ラボ in 秋田」にて

外部リンク：<https://web.aiu.ac.jp/>